

エゾムラサキ	<i>Myosotis sylvatica</i> (Ehrh.) Hoffm.	絶滅危惧Ⅱ類
		ムラサキ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。	写真(清水英彦)
形態の特徴	高さ20-40cmでよく分枝する多年草。基部の葉は匙形、茎葉は倒披針形で鈍頭。上部のものはやや茎を抱く。花期は5-7月。枝先にやや長い総状花序を出し、疎らに多くの花をつける。小花は淡青紫色で、径6-8mm。分果は平滑で、長さ約1.5mm。	
生態的特徴	深山の林内に生える。	
分布状況	本州中部、北海道、南千島、樺太、朝鮮、中国、ヨーロッパ、北アフリカに分布する。県内では県北のかなり広い地域に生育し、県南にも生育地がある。	
減少要因	本種の分布域は県北のかなり広い地域及び県南の1地域にわたっているが、もともと生育個体数は少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できないことのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良